

遠藤三郎 陸軍軍人。世界連邦論の影響で、対ソ作戦の"防勢"変更企図して左遷され、<敗戦>後は再軍備に反対。

えんどうさぶろう

郡司千島探検1893 = 山形県東置賜郡小松町(川西町)に呉服商の三男として生まれる。

日清戦争始・1894 = 1歳 :

教科書疑獄・1902 = 9歳 :

日露戦争終・1905 = 12歳 :

仙台幼年学校を経て、

大逆事件判決1911 = 18歳 :

明治天皇没・1912 = 19歳 :

第一次大戦始1914 = 21歳 : 陸軍士官学校を卒業。

大暴落・・・1920 = 27歳 :

原敬首相暗殺1921 = 28歳 :

水平社結成・1922 = 29歳 : 陸軍大学校を卒業、参謀本部作戦課に勤務。

以後、主に作戦畑を歩む。

円本時代始・1926 = 33歳 :

フランスに留学、
メッツ防空学校・フランス陸軍大学校に学び、
世界連邦論の影響を受けて、

世界恐慌・・・1929 = 36歳 : 帰国。

満州事変・・・1931 = 38歳 :

満州事変では参謀本部作戦課員として関東軍との連絡のため満洲に派遣され、
のち関東軍作戦参謀として、熱河作戦、塘沽停戦協定などに従事。

日中戦争始・1937 = 44歳 : 日中戦争には野戦重砲兵連隊長として華北に出征。

健保+総動員 1938 = 45歳 :

第二次大戦始1939 = 46歳 : *ノモンハン事件停戦のため関東軍副参謀長として赴任、日本の対ソ作戦計画を"攻勢"から"防勢"に変えようとして軍中央と衝突、航空部門に転ぜられる。

日米開戦・・・1941 = 48歳 : 太平洋戦争初期、第三飛行団長として、仏印・マレー・ジャワなどに出征。

・・・1942 = 49歳 : 中将に昇進、航空士官学校長となる。

創価学会検挙1943 = 50歳 : 陸軍航空総監部総務部長後、軍需省創設に伴い同省航空兵器総局長官に就任、兵器産業の国営化、航空機種^{キョウコウキョウ}の統一規格化などを推進したが、

敗戦・・・1945 = 52歳 : 敗戦となる。

新憲法施行・1947 = 54歳 : 戦犯として巣鴨拘置所に入所、

極東裁判決・1948 = 55歳 : 不起訴となり釈放。

その後、家族とともに埼玉県入間川(狭山市)に一開拓農民として入植、辛酸をなめる。

朝鮮戦争始・1950 = 57歳 : *朝鮮戦争を契機とする日本の再軍備に強く反対し、

独立回復・・・1951 = 58歳 :

TV放送始・・・1953 = 60歳 :

*片山哲元首相らと憲法擁護国民連合を結成、護憲・平和運動を推進。
また世界連邦建設同盟にも参加。

55年体制始・1955 = 62歳 : 以来しばしば中国を訪問、

国連加盟・・・1956 = 63歳 :

安保闘争・・・1960 = 67歳 :

たいたい病始・1961 = 68歳 : 日中友好元軍人の会を組織し、

中国との国交回復に尽力し、

大学紛争始・1965 = 72歳 :

石油ショック1973 = 80歳 :

角栄金脈辞任1974 = 81歳 : *「日中十五年戦争と私」を著して、

・・・1984 = 91歳 : 没した。